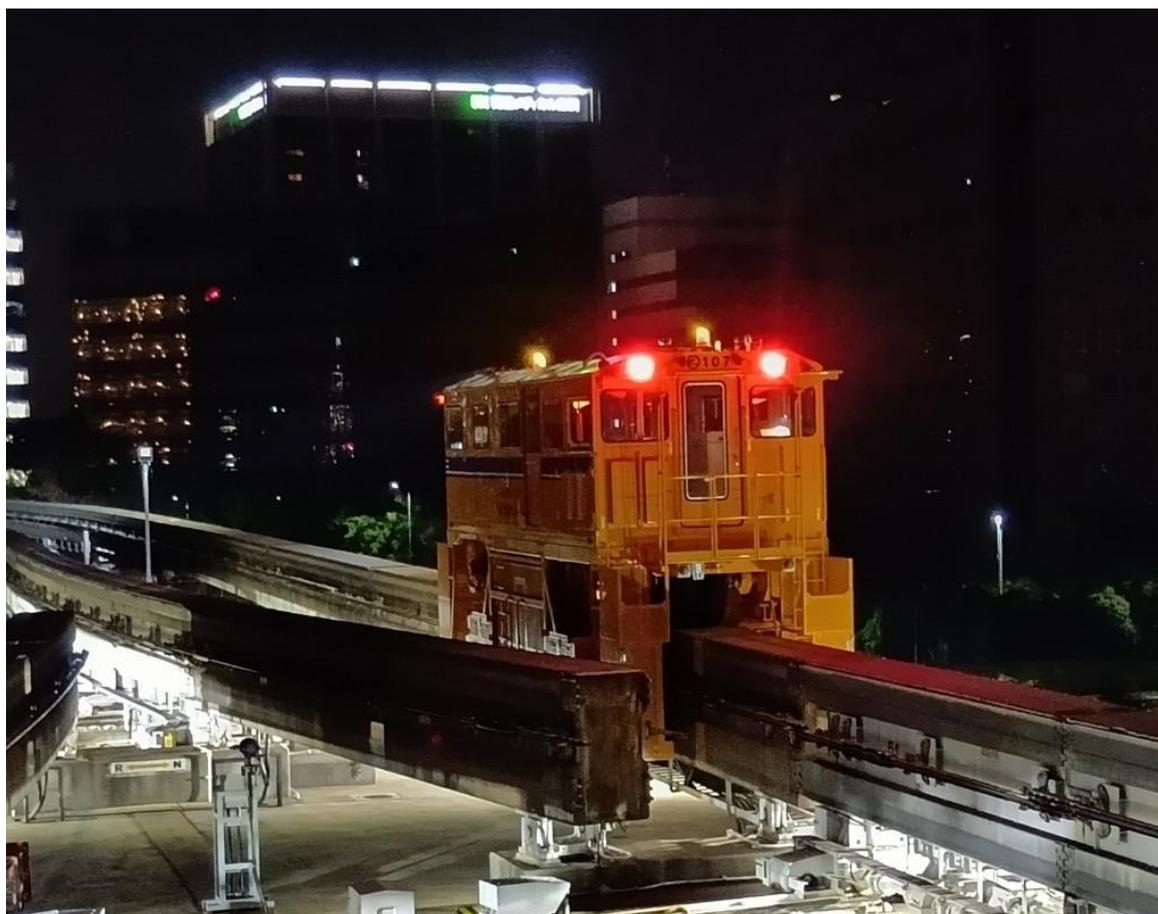


安全報告書 2025



ごあいさつ

平素から、大阪モノレールをご利用いただき、誠にありがとうございます。

当社は、「人にやさしい鉄道」「安全な鉄道」「地域に奉仕する鉄道」の経営理念の下、お客さまを目的地まで安全にお運びするために、社員一人ひとりが日々の業務に励んでおります。

2024年度は、ハード面では全車両への防犯カメラの設置が完了するとともに、新型車両3000系の導入や、駅のエレベーター、エスカレーターの更新、夜間の保守点検作業を行う工作車の更新などを行い、安全・安定輸送の確保に努めました。また、ソフト面では、消防局や関係機関と連携した駅間に列車が停止した場合の非常時合同訓練や、警察署と連携したテロ対応訓練を実施し、社員一人ひとりの対応力を強化するとともに、地震被災度推定システムを活用した、地震発生時の運転方法や点検・復旧方法の異常時対応訓練を行うなど、地震発生時の対応力の強化に取り組みました。これらの結果、2024年度も責任事故が皆無であったことから、2024年10月に連続8期運転無事故表彰を受けたところです。

引き続き、お客さまから信頼され、喜ばれ、地域に愛される“大阪モノレール”をめざして、社員一丸となって「輸送の安全の確保」に取り組んでまいります。

最後になりましたが、当社すべての社員が一致協力し、築き上げてきた安全風土を守り、さらにお客さまが安心してご利用いただける鉄道をめざし、今後も改善を重ねてまいります。

本報告書は2024年度における当社の安全確保に関するさまざまな取り組み状況等を、広く皆さまにご理解いただくために、とりまとめたものです。ぜひご覧いただくとともに、ご意見やご助言を賜れば幸いです。

大阪モノレール株式会社
代表取締役社長

谷口 友英



目次

1. 安全に関する基本的な考え方

1-1 安全方針・安全行動規範・防災の基本方針 P.1

1-2 安全目標・安全重点施策 P.1

2. 安全管理体制と方法

2-1 安全管理体制 P.2

2-2 主な管理者の役割 P.2

2-3 安全管理方法 P.3

3. 事故等の発生状況

3-1 運転事故・インシデント・輸送障害 P.4

3-2 行政指導等 P.4

4. 輸送の安全確保のための取り組み

4-1 安全重点施策 P.5

4-2 安全管理等の強化 P.8

4-3 災害時の安全対策 P.11

4-4 設備の維持管理 P.15

4-5 安全投資等 P.17

5. お客さまへの情報発信

5-1 お客さま案内モニタ・ホームページ・運行状況案内ダイヤルによる案内 P.18

6. お客さま、工事等をされる方へのお願い

6-1 緊急事態発生時の非常用設備 P.18

6-2 沿線で工事等をされる方へのお願い P.20

1. 安全に関する基本的な考え方

1-1 安全方針・安全行動規範・防災の基本方針

当社は、「人にやさしい鉄道」「安全な鉄道」「地域に奉仕する鉄道」の経営理念の下、大阪モノレールを運行しています。経営理念の実現に向けて社員が共有すべき考え方を「基本精神」として定め、「お客さまの安全輸送の確保」を掲げています。また、安全に関する取り組みの意志を簡潔に伝えるため、社員に対する経営トップのコミットメントとして、「安全方針」や「安全行動規範」、「防災の基本方針」を定め、役員・社員への周知・徹底を図っています。

安全方針

1. 私たちは、お客さま安全第一の意識を持ち、全社一丸となって職務に精励します。
2. 私たちは、輸送の安全に関する法令及び関連する規程を遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
3. 私たちは、安全性の維持向上のために安全管理体制を常に点検し、その向上に努めます。

安全行動規範

1. 社員全員が基本動作を徹底し、一致協力して、輸送の安全の確保に努めます。
2. 常日頃から教育・訓練に計画的に取り組む、法令・規程を理解し遵守します。
3. 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めます。
4. 事故・災害等が発生した際には、人命救助を最優先とし、被害の拡大を防止します。
5. 風通しのよい職場環境を構築し、情報を漏れなく迅速、正確に関係者間で共有します。
6. 安全管理体制の継続的な改善のため、必要な変革に果敢に挑戦します。

防災の基本方針

1. 平素から、防災・減災など被害の未然防止・拡大防止の取組に努めます。
2. 自然災害の対応を行う際は、お客さまおよび社員の人命を最優先に行動します。
3. 自然災害復旧にあたっては、十分に安全を確保したうえで、早期の運転再開を目指すとともに、適時適切な情報発信に努めます。

1-2 安全目標・安全重点施策

2025年度の安全目標・安全重点施策

『安全目標』

1. 運転事故・インシデント「ゼロ」
2. 設備不具合によるお客さま負傷「ゼロ」
3. 社内原因による輸送障害「ゼロ」

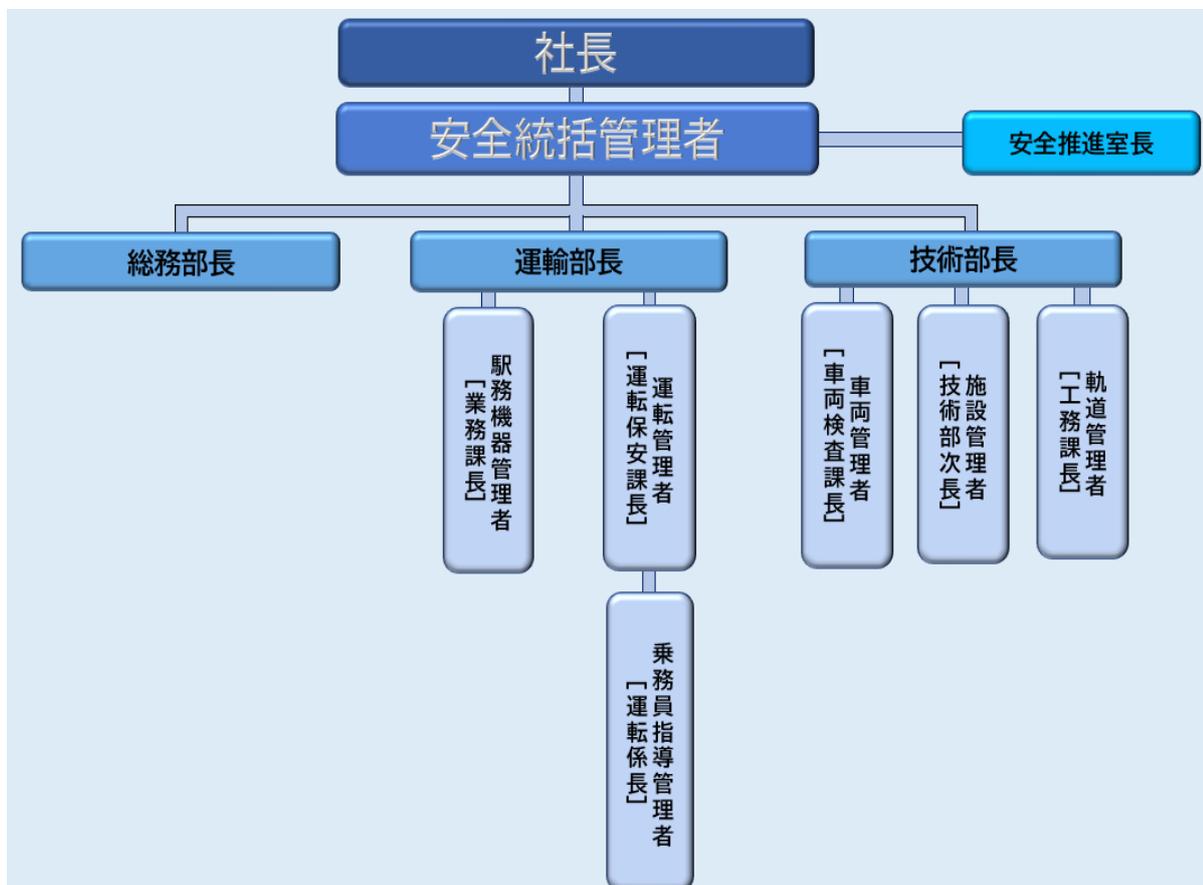
『安全重点施策』

1. 事故・トラブルの未然防止
2. 施設・設備の安全性向上
3. 事故・災害等、トラブル発生時の対応力向上

2. 安全管理体制と方法

2-1 安全管理体制

安全管理規程において、輸送の安全を確保するために遵守すべき事業の実施および管理の体制、方法を定めています。



2-2 主な管理者の役割

役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する
運 転 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する
軌 道 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、軌道に関する事項を統括する
施 設 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、施設に関する事項を統括する
車 両 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する
総 務 部 長	輸送の安全の確保に必要な投資計画、予算計画、要員計画に関する事項を統括する
安 全 推 進 室 長	安全統括管理者の指揮の下、輸送の安全の確保に必要な監査計画並びに事故・災害等の防止に関する事項を統括する
駅務機器管理者	安全統括管理者の指揮の下、駅務機器に関する事項を統括する

2-3 安全管理方法

安全マネジメントに関する会議の実施

安全管理体制の維持向上および事故防止のために、安全統括管理者を委員長とした「安全マネジメント会議」を毎月開催しています。

更に経営トップを中心とした「経営管理層」による「役員安全マネジメント会議」も毎月開催しています。



安全マネジメント会議

大阪モノレールの Web サイトでは、大阪モノレールの「安全」そして「安心」のための取り組みを紹介しています。
(画像をクリックするか、二次元コードを読み込んでください)



事故防止対策検討会の実施

同じ過ちを繰り返さないために、運転事故等の原因と対策を検討する「事故防止対策検討会」を安全統括管理者がチーフとなって開催しています。

検討会では、他社の事故事例や関連情報などからも、自社に該当する事項の事故防止策を検討します。

マネジメントレビューの実施

社長が、社内の安全管理体制が適切かつ有効に機能しているかを評価し、改善措置を行うマネジメントレビューを半年ごとに行っています。

輸送の安全に関する内部監査の実施

安全管理体制が継続して適切、かつ有効であることを確認するため、社長が実施するマネジメントレビュー以外に、輸送の安全に関する部署を対象に内部監査を実施し、継続的な改善活動を行っています。

社長等による現場巡視

安全管理状況を確認するため、社長をはじめとして運輸部長や技術部長による定期的な現場巡視を行っています。2024年度は、「春の全国交通安全運動」「安全運転推進運動」「秋の全国交通安全運動」「年末年始の輸送等に関する安全総点検」の期間中に巡視を行いました。



社長による巡視

3. 事故等の発生状況

3-1 運転事故・インシデント・輸送障害

2024 年度において、国土交通省へ報告すべき運転事故・インシデントは発生していませんが、同省へ報告した輸送障害が1件発生しました。

			2022 年度	2023 年度	2024 年度
運 転 事 故			0	0	0
インシデント			0	0	0
輸 送 障 害	社内要因	鉄道係員・ 車両・施設	0	3	0
	社外要因	第三者行為等	0	0	0
		自然災害	0	2	1
		その他	1	0	0

【運転事故】

衝突事故、脱線事故、火災事故、踏切・道路障害事故、人身障害事故、物損事故

【インシデント】

運転事故には至らなかったが、運転事故が発生する恐れがあったと認められる事態

【輸送障害】

車両の運転休止または 30 分以上の遅延を生じたもので運転事故に該当しないもの

社 内 要 因…鉄道係員や車両、施設が原因の場合

第三者行為等…妨害や軌道内への立入り等の第三者行為や沿線の火災等の場合

自 然 災 害…風害、雪害、地震等の場合

そ の 他…上記に当てはまらない場合

3-2 行政指導等

2024 年度、行政指導等はありませんでした。

4. 輸送の安全確保のための取り組み

4-1 安全重点施策

(1) 事故・トラブルの未然防止

安全マネジメント研修

毎年さまざまな事例をもとに、部署を超えて社員同士が自由に意見を交換するディスカッション形式の研修を行っています。

2024年度は「コミュニケーション」をテーマに、話し合いを通じて、当たり前のように難しいコミュニケーションの大切さを、話し合いを通して再認識しました。



安全マネジメント研修

施工計画検討会

工事を行うにあたっては、「質の高い施工」「計画通りのスケジュール」「徹底した安全管理」が大切です。そこで工事が始まる前に「施工計画の話し合い」の場を設け、工事を行う会社が作成した計画書をもとに、意見を交換し、お互いの理解を深めることで、「円滑な施工」「適正な安全管理」に寄与しています。また、工事が始まってからも、常に協力しながら、安全でスムーズな作業を進められるよう努めています。



施工計画検討会

ヒヤリ・ハット運動の充実

大きな事故を防ぐカギは、日々の業務に隠された「小さな危険」に気づくことです。そのため、社員一人ひとりの事故には至らなかったけれど危なかった体験（ヒヤリ・ハット）を収集し、「どうすれば同じような危ない状況を防げるか」を考えることで、事故を未然に防ぐ取り組みを進めています。

新入社員研修

毎年、新入社員向けに、安全意識を高めるための研修を行っています。この研修では、社員一人ひとりが「安全が第一」という意識を持って業務に取り組めるよう、安全な運行に不可欠なルール（運輸安全マネジメント制度）や、安全への取り組み、そして事故や災害など緊急時の対応について研修しました。



新入社員研修

階層別研修

過去の失敗を未来の安全につなげるため、社内で実際に起きたトラブルや失敗事例をもとに、作業者と指導・監督者の立場に応じたディスカッション研修を行いました。この研修を通じて、失敗から得た教訓を次の世代へ着実に引き継いでいきます。



階層別研修

(2) 施設・設備の安全性向上

車両の更新

これからもお客さまに安心してモノレールをご利用いただくため、省エネルギー化と環境負荷低減を考慮した新型車両に、順次入れ替えています。2024年度は、2編成の車両が新しくデビューしました。



新型車両の搬入状況

工作車の更新

モノレールの線路設備点検に欠かすことが出来ない作業用車両を更新しました。トラブルが起きても、これまでより早く復旧できるように、故障内容をガイダンスで確認ができるタッチパネル式の運転台を採用し、安全性の向上を図りました。



工作車 107

タッチパネル式の運転台

(3) 事故・災害等、トラブル発生後の対応力向上

対策本部運営訓練

災害などの緊急時に、社内や関係機関とスムーズに連絡を取り合い、お客さまへ正確な情報をお伝えし、安全を最優先した運行判断ができるよう、対策本部運営訓練を定期的に行っています。

2024年度は、モノレール沿線での地震発生を想定した訓練を行い、社内各部署及び外部機関が参加しました。



対策本部運営訓練

非常時合同訓練

モノレールが駅と駅の間で止まってしまった場合に備え、関係機関と協力して定期的に救出訓練を行っています。

2024年度は、千里中央駅付近で豊中市消防局、大阪府と豊中警察署、大阪府池田土木事務所と合同で、モノレールからお客さまを安全に地上へ救出する訓練を行いました。今回の訓練では妊娠中のお客さまや目・耳の不自由なお客さまなど、避難に配慮を要するお客さま役の救出にも取り組みました。



降下救出によるお客さま救出訓練

YouTube「大阪モノレールチャンネル【公式】」では、非常時合同訓練について紹介しておりますので、ぜひご覧ください。
(画像をクリックするか、二次元コードを読み込んでください)



テロ対応訓練

お客さまの安全を守るため、定期的にテロ対応訓練を行い、対応力向上に取り組んでいます。

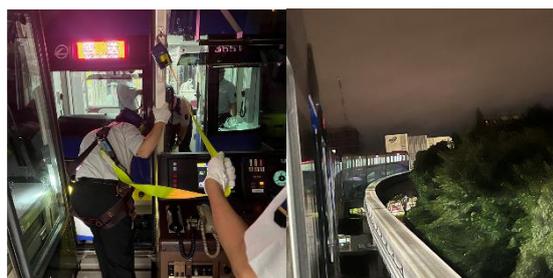
2024年度は、大阪空港駅で大阪府豊中警察署空港警備派出所と合同で、「車内で不審者が暴れている」という緊迫した状況を想定し、運転士や駅係員が、お客さまをいかに安全に避難誘導するか、そして社内全体でいかにスピーディーに情報連携して対応するかを確認しました。



警察による暴漢の取押え訓練

列車の併結訓練

列車が故障などで動けなくなってしまう場合を想定して、動けなくなった列車を別の列車と連結し、次駅まで運転する夜間訓練を定期的に行っています。



異常時における併結運転訓練

火災対応訓練

駅における火災を想定した訓練を定期的に行っています。

2024年度は大日駅で守口市門真市消防組合消防本部と合同で、火災に対する通報・情報連携の訓練や、お客さまの避難誘導の訓練、消防設備の使用方法等を確認しました。



消防と連携した火災対応訓練

過去事例の振り返り教育

車両や設備のメンテナンス作業での「ミス」や「作業中のケガ」が起きないように、社員と協力会社が一体となって定期的に研修を行っています。

実際に発生した故障事例やヒヤリ・ハット事例を取り上げ、原因と対策を具体的に学び、トラブルへの対応力を高めています。



ヒヤリ・ハット事例の振り返り教育

電気設備の異常時対応訓練

電気を安定供給するため、受変電設備にトラブルが起きた際に迅速に対応するための実践的な訓練を定期的に行っています。

訓練には、実際のシステムを模擬した『電力シミュレーター』装置を活用し、万が一の停電や故障を想定し、停電や故障時における機器の確認や、運行を再開するために再び電気を送るための訓練を行い、対応力の向上に努めています。



電力シミュレーターを使用した訓練

分岐器の異常時取扱い訓練

分岐器（ポイント）が故障した際に、素早く対応できるように定期的に訓練を行っています。

過去の故障事例を参考に、座学だけでなく、2019年に導入した分岐器模型等を使って修理手順のシミュレーションや、機器故障時の部品交換といった実践的な訓練も実施しています。



分岐器模型を使用した故障対応教育

4-2 安全管理等の強化

運輸指令所における列車の運行管理

運輸指令所では列車の運行管理、変電所の監視、駅防災管理、非常系の管理など、大阪モノレールの主要機能をコンピューターシステムで集中管理しており、不測の事態に対し迅速な対応ができる体制で安全運行の確保に努めています。

また、列車出発の際には各駅のホームの状態を監視モニタに表示し、ホームの安全を確認しています。非常時は係員が列車の停止操作や停電操作を行い、事故を未然に防ぎます。



運輸指令員による安全監視

大阪モノレールのWebサイトでは、大阪モノレールの「安全」そして「安心」のための取り組みを紹介しています。
(画像をクリックするか、二次元コードを読み込んでください)

OSAKA MONORAIL

大阪モノレールの
「安全」そして「安心」

指令所の役割
No.13



アルコール検査

運転士および保守・点検するための工作車等の運転業務、業務用自動車の運転に携わる者全員に対し、アルコール検知器を用いてアルコール検査を行っています。検査結果は管理者が確認しています。



運転士のアルコール検査

eラーニングによる教育

社員一人ひとりの安全への意識と知識を深めるため、社員全員が毎月eラーニング形式（パソコンを使った学習）のテストに取り組んでいます。テストの問題は定期的に見直し、何度も繰り返し学ぶことで、「うっかり」や「知らなかった」を防ぎます。



eラーニングの取り組み

睡眠時無呼吸症候群対策

「SAS（睡眠時無呼吸症候群）」とは眠っている間に呼吸が浅くなったり止まったりする病気で、日中の強い眠気や集中力の低下を引き起こし、安全運転に影響が出る可能性があります。

こうした症状が事故につながらないよう、運転士は「眠気度チェック」及び「スクリーニング検査」を定期的に行っています。

危険予知（KY）活動

事故を未然に防ぐために、作業前ミーティングや、運転士の教育訓練において、その作業に潜む危険を予想し、確認しあう取り組みを行っています。

この活動を通して、具体的な作業の危険ポイントや行動目標を定め、それをチーム全員で唱和するなどして、安全意識の向上を図っています。



作業前ミーティング

サービス介助士の資格取得

サービス介助士は、ご高齢の方やお身体の不自由な方が安心してサービスを利用できるようサポートする専門資格です。

利用者の安全・安心を第一に考え、適切な介助方法やコミュニケーションの習得に取り組んでいます。

2024年度に駅係員全員がサービス介助士の資格を取得しました。



目の不自由なお客さまのサポート

車内防犯カメラによる監視

車内の安全性向上、犯罪抑止のため、2020年から客室内防犯カメラの導入を行い、2024年12月保有する全車両※への設置が完了しました。

※2025年度廃車予定の1編成(4両)を除く



乗降ドア上部の設置例

非常時用名札シールの携帯

社員が私服でモノレールを利用中に、事故・災害などの非常事態に遭遇した際、このシールを着用して支援活動を行います。全社員が携帯し円滑な支援活動ができるよう備えています。



非常時用名札シール

警戒中の腕章着用等

運転および駅の監督者は「警戒中」と記した腕章を着用し、巡回警備を行っています。また、駅の清掃員もバッジを着用し、お客さまにテロ警戒の啓発を行っています。



警戒腕章



バッジ

駅防犯カメラによる監視

駅構内における防犯対策として、全18駅に防犯カメラを設置し運用しています。特に係員やお客さまから死角となりがちな場所を重点的に監視できる体制を整えています。

2024年度は、より高画質、広範囲の撮影に対応した器材に更新するなど、安全性を高める改善に取り組んでいます。



駅防犯カメラ

透明ゴミ箱

各駅のゴミ箱を前面部透明とし、万が一不審物等が投棄された際に、目視で発見しやすい環境を備えています。



透明ゴミ箱

4-3 災害時の安全対策

(1) 災害への対応

暴風時の対応

暴風時における安全確保のため、沿線3カ所に風速計を設置しています。なお、風速計からの風速情報は、常時運輸指令所で監視しており、風が強くなり規定値を超える場合には、次のような取扱いをします。

○風速が20m/秒を超えるときは一部区間で徐行運転を行います。

○風速が25m/秒を超えるときは運転を中止します。

※上記の場合に限らず、危険があると判断したときは、随時徐行運転等を行います。



風向風速計



風向風速監視システム

地震発生時の対応

早期地震通報システムと実際の地震動を計測するための地震計を導入しています。これらにより地震情報をいち早く入手して対応することにより、安全の確保に努めています。



早期地震通報システム



地震観測システム

・地震被災度推定システム

2018年に発生した大阪府北部地震後の対策として、地震被災度推定システムを構築しました。このシステムは、地震が起きると、揺れのデータから「どの柱が損傷した可能性があるか」を瞬時に自動で計算します。これにより、地震の直後から「どこを優先して点検・修理すべきか」がすぐに分かり、よりスピーディーに対応できるようになりました。



地震被災度推定システム

YouTube「大阪モノレールチャンネル【公式】」では、地震対策について紹介しておりますので、ぜひご覧ください。
(画像をクリックするか、二次元コードを読み込んでください)



・ 碍子の落下防止対策

大阪府北部地震での被災実例を踏まえ、モノレールに電気を供給する電車線を支える碍子が破損した場合でも、地上へ落下することが無いよう、絶縁ロープを巻き付け落下防止対策を進め、2024年度に全1112箇所の対策が完了しました。



電車線の碍子落下防止対策

・ 南海トラフ地震臨時情報発表時の対応

気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」（大きな地震への注意を呼びかけるお知らせ）が発表された場合、原則として、列車の運行は続けながら、万が一に備えて安全の再点検を行います。
お客さまには、「臨時情報が発表されたこと」や、「もし本当に地震が起きたら、急にモノレールが止まることがあります」といった大切な情報をお知らせしますので、駅や車内の案内にご注意ください。

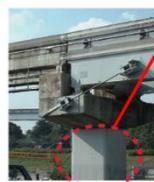
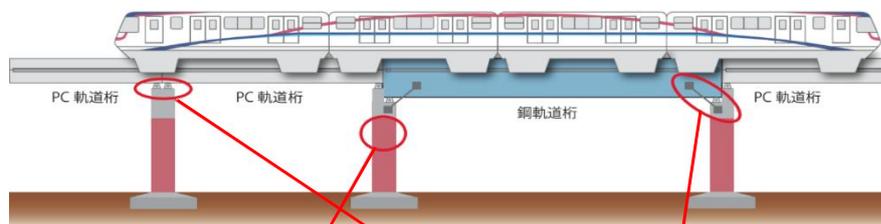
・ 耐震事業

大阪府と協力して、マグニチュード7級の内陸直下型の地震に対して必要な耐震性が確保できるよう支柱の補強や、軌道桁の落橋防止、駅舎の制震化などの対策を行っています。

1) 軌道桁の落橋防止装置

大阪モノレールは、広域緊急交通路である府道大阪中央環状線の上空を走っており、地震で軌道桁が落橋して道路を閉塞しないように落橋防止装置を取り付けています。

※広域緊急交通路：災害時に応急活動(救助・救急、医療、消火、緊急物資の供給)を迅速かつ的確に実施するための道路



支柱の補強



軌道桁・橋梁の落橋防止装置



駅舎の制震装置

2) 支柱の補強

コンクリートの支柱に鋼板を巻きたてて、粘り強くなるように補強しています。



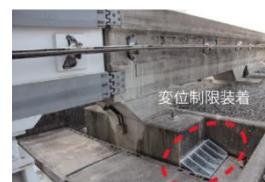
オイルダンパー
駅舎の制震装置

3) 駅舎の耐震

地震のエネルギーを吸収して、変異量を抑えるオイルダンパーを駅舎の躯体に取り付けています。

4) 車両基地の耐震

車両基地の留置線が地震で横ズレしないように変位制限装置を設置しています。



変位制限装置

浸水害時の対応

近年増えている集中豪雨や河川の氾濫など、水による災害が起きた時に、お客さまの安全を確保し、大阪モノレールの運行をできる限り継続、または早期に再開することをめざすため、2020年度に『大阪モノレール浸水対応事業継続計画（BCP）』を策定し、定期的に訓練を行っています。



浸水対策訓練（大日駅）

YouTube「大阪モノレールチャンネル【公式】」では、浸水対策の訓練について紹介しておりますので、ぜひご覧ください。（画像をクリックするか、二次元コードを読み込んでください）



災害時のお客さま救出方法

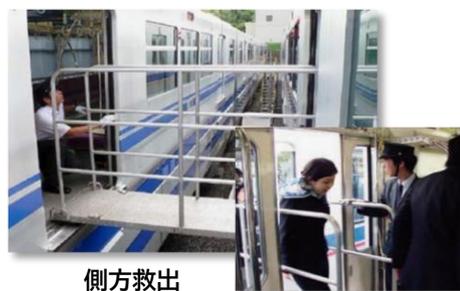
大阪モノレールでは、自然災害や重大事故等で列車が駅間で走行不能になった場合に備え、列車や駅にお客さまの救出装置を備えています。また、沿線消防にもご協力いただき、消防隊による救出も行います。

1) 前後救出・側方救出

救援する列車が故障した列車に連結・横づけして、乗り移っていただく方法です。



前後救出



側方救出

2) 降下救出

列車に備えられている脱出シューターや、緩降機を使用して地上に降りていただく方法です。



脱出シューター

シューター内部はらせん状に滑り降りることができる構造になっています。



緩降機（スローダン）

3) レスキュー救出

消防隊により、はしご車を使用して列車から地上に降りていただく方法です。



消防隊による救出（はしご車）

大阪モノレールのWeb サイトでは、大阪モノレールの「安全」そして「安心」のための取り組みを紹介しています。
（画像をクリックするか、二次元コードを読み込んでください）

OSAKA MONORAIL

大阪モノレールの
「安全」そして「安心」

お客さま救出方法
Vol.1

No.17



OSAKA MONORAIL

大阪モノレールの
「安全」そして「安心」

お客さま救出方法
Vol.2

No.18



災害時における情報発信

2018年に発生した大阪府北部地震の被災経験を踏まえ、【4つの基本ルール】を視点にお客さまへの情報をタイムリーに発信しています。

大前提となる視点【4つの基本ルール】

- ①お客さまの「判断」に役立つ情報をお客さま目線で発信する
- ②お客さまが「判断」するのに役立つタイミングで情報を発信する
- ③社内での情報共有を徹底し、情報を発信する
- ④お客さまの声（不満、疑問）は速やかに社内共有し、意思決定の精度を上げる

上記【4つの基本ルール】に基づき、お客さまが「ご自身の行動を判断」していただけるよう、ホームページ、SNS等のツールを活用してタイムリーな情報発信を行っております。

また、お客さま案内モニタにおいて、緊急時にインバウンドのお客さまにも正確な情報を提供できるよう4か国語に対応しております。「英語」「韓国語」「中国語＝簡体字と繁体字」の充実を図りました。

台風接近時の列車の運転について

現在、通常運転をしています。

台風の接近に伴い、列車の徐行運転や運転を取り止める場合がありますので、予めご了承ください。

Train Services During Approach of Typhoon

Train services are currently running normally.

Please note that due to the approaching typhoon, trains may be running slowly and services may be canceled.

태풍 접근 시 열차 운행에 관하여

현재 정상적으로 운행하고 있습니다.

태풍이 다가오고 있어 열차를 서행 운행하거나 운행을 중단할 가능성이 있으므로 미리 양해 바랍니다.

关于台风接近时列车的运行

现在，列车正常运行。

伴随台风的接近，列车有可能缓慢运行或停止运行，敬请提前知悉并谅解。

多言語表記モニタ例

4-4 設備の維持管理

(1) 施設の維持管理

法令等で定められた周期に基づき、施設の定期的な検査・点検等を行っています。

列車が運行している時にできない検査や点検は、最終列車運行終了から始発列車運行開始までの時間に行い、適切な設備の維持管理に努めています。

線路の点検

法令や省令に基づき、軌道桁は1年、支柱・橋梁等は2年周期で点検しています。

具体的には、目視による全般検査や徒歩巡視・添乗巡視のほか、保守車両に搭載した測定機器によって軌道桁やそれを支える支承等に、ひび割れ・錆・歪み・ボルトの緩み等の不良箇所や異常がないかを点検し、データを収集しています。この点検によって、異常を発見した場合は、より詳しい調査や調整・補修等の適切な処置を行っています。



保守車両による点検

分岐器の点検



分岐器点検

分岐器（ポイント）は軌道を分岐させてモノレールの進む方向を切り換える装置です。この機能を適正に維持管理するため、月1回の巡視検査（主要部の給油や目視確認）と年3回の自主検査（一般的な機能確認）を行っています。定期的に部品を交換することで、安全運行の確保に努めています。

信号保安設備の点検

列車の衝突・脱線を防ぎ、安全運行に欠かせないATC/TD装置などの信号保安設備は、機能維持のため定期的に検査を行っています。ATC/TD装置は2016年度から、機器状態を自動的に測定し保存する機能や詳細な故障情報を記録する機能を付加した装置に順次更新し、安全性の向上に取り組んでいます。

（ATC/TD装置：自動列車制御装置/列車検知装置）



信号保安設備点検

(2) 車両の維持管理

法令や省令に基づき、各種検査を実施するとともに、会社独自の自主検査も行っています。

車両の検査

検査名称	検査周期
列車検査	10日を超えない期間ごと
周期検査【自主検査】	概ね1カ月周期
月検査	3月を超えない期間ごと
重要部検査	4年を超えない期間ごと
全般検査	8年を超えない期間ごと

重要部検査・全般検査



①車体と台車を分離



②台車吊り上げ



③台車からタイヤを分離



④総合検査

大阪モノレールのWebサイトでは、
大阪モノレールの「安全」そして「安心」のための取り組みを
紹介しています。
(画像をクリックするか、二次元コードを読み込んでください)

© ORICA MONORAIL
大阪モノレールの
「安全」そして「安心」
車両の定期検査
No.12



4-5 安全投資等

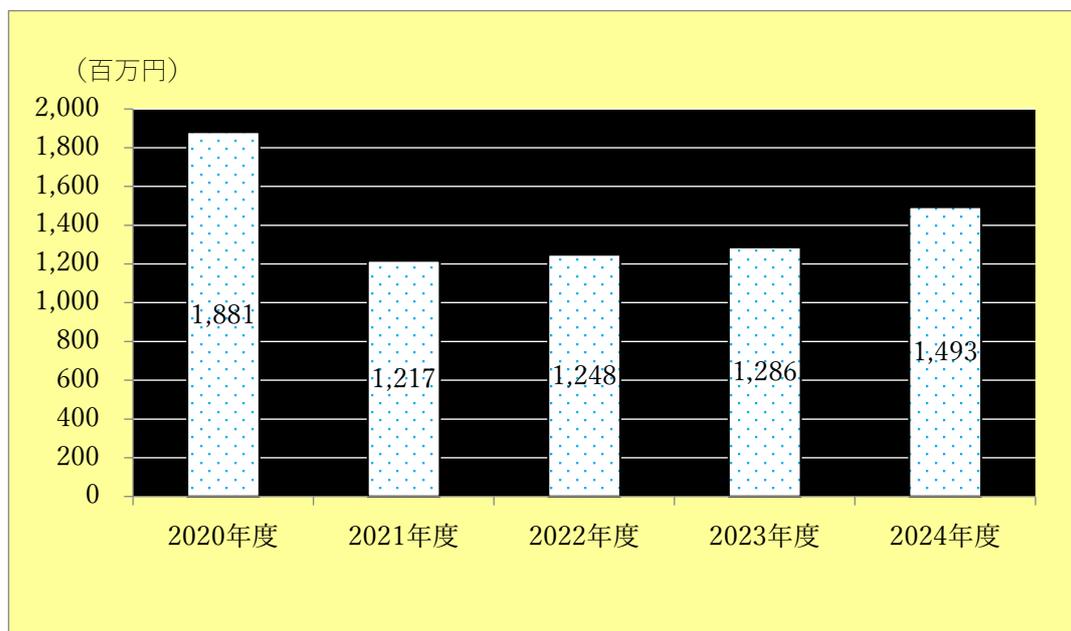
2020年度から2024年度まで過去5年間の軌道事業における、安全に関する主な設備投資及び、点検や検査等にかかる修繕費は以下のとおりです。

安全に関わる設備投資及び修繕費

(1) 設備投資

年度	主な設備投資
2020年度	新造車両（3000系）の導入、可動式ホーム柵の設置、ATC/TD装置の更新
2021年度	新造車両（3000系）の導入、可動式ホーム柵の設置、万博公園変電所の設備更新
2022年度	新造車両（3000系）の導入、可動式ホーム柵の設置、万博公園変電所の設備更新
2023年度	万博公園変電所の設備更新、分岐器制御盤の更新
2024年度	新造車両（3000系）の導入、工作車の更新

(2) 修繕費



◎修繕費の主な業務内容

施設関係：分岐器保守点検、工作車保守点検

電気関係：受変電設備保守点検、信号通信設備保守点検

車両関係：車両重要部全般検査、走行輪タイヤ交換

5. お客さまへの情報発信

5-1 お客さま案内モニタ・ホームページ・運行状況案内ダイヤルによる案内

輸送障害等の発生時における自社の運行情報、振替輸送情報等を速やかにお客さまへご提供するため、お客さま案内モニタを全駅構内に設置しています。

また、ホームページや運行情報案内ダイヤル（ナビダイヤル）により、列車の遅延に関する情報を発信しています。



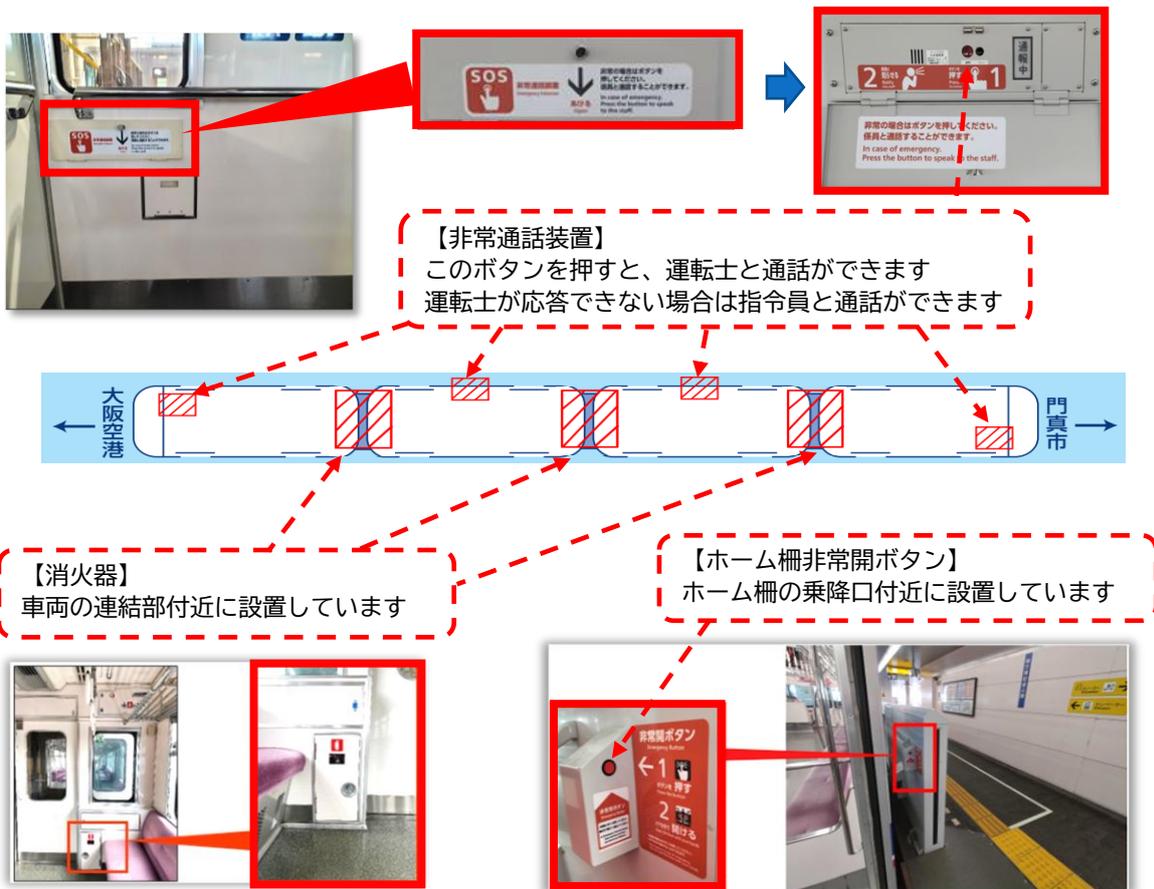
お客さま案内モニタ

6. お客さま、工事等をされる方へのお願い

6-1 緊急事態発生時の非常用設備

(1) 車内でのお願い（非常通話装置、消火器、ホーム柵非常開ボタン）

車内で緊急事態が発生した場合は、迷わず運転士へ通報してください。火災発生時にはご自身の安全を確保できる範囲で、初期消火にご協力ください。また、緊急時に駅に到着後、ホーム柵が開かない場合は、ホーム柵非常開ボタンを押して手動でホーム柵を開けてください。



非常用設備をよりわかりやすくお客さまにご理解いただけるよう、国土交通省の「車内非常用設備等に関するガイドライン」に沿ったピクトグラムを活用した表示に変更いたしました。

(2) ホームでのお願い（列車非常停止装置、非常電話）

- ・ホームで不審物を発見された場合等には、近くの係員にお知らせいただくか、ホームに設置しているホーム操作箱の「非常電話」で駅係員へお知らせください。
- ・ホーム下に落とし物をされた場合は、近くの係員へお知らせいただくか、改札窓口の駅係員にお知らせください。
- ・ホームから転落したお客さまを発見された場合には、ホーム操作箱の「列車非常停止ボタン」を押し、「非常電話」で駅係員へお知らせください。



設置個所案内看板

【列車非常停止ボタン】
このボタンを押すと、列車は停止信号を受け、その駅への進入およびその駅からの進出ができなくなります

【非常電話】
ホーム操作箱内にある非常電話を使用して、
駅係員と通話ができます



ホーム操作箱

6-2 沿線で工事等をされる方へのお願い

【大阪モノレール沿線で工事等をされる方に】

大阪モノレール株式会社

大阪モノレール沿線で工事等をされる方に 「事故防止にご協力を」

モノレール近傍で作業・工事等を行う際は、近接作業に該当するか否か、必ず事前にお問い合わせ下さい

大阪空港駅～門真市駅間と万博記念公園駅～彩都西駅間で営業しております大阪モノレールは、列車が軌道に跨座し、軌道側面の電車線（直流 1500 ボルト）から電気を供給して走行しております。

このため、モノレール構造物に近接する作業や、モノレール沿線での重機械等の使用は、感電や車両接触事故をはじめ、急ブレーキによる乗客の負傷等、重大な事故や、運行阻害を招くおそれがあります。

当社では、重大事故防止の観点から『建築限界』、『き電停電作業範囲』、『地下構造物影響範囲』などを設定しており、モノレール沿線近傍で作業、工事等を行うには、これらの近接作業に該当するか否かも含めて、事前に『確認』または『近接協議』が必要となります。

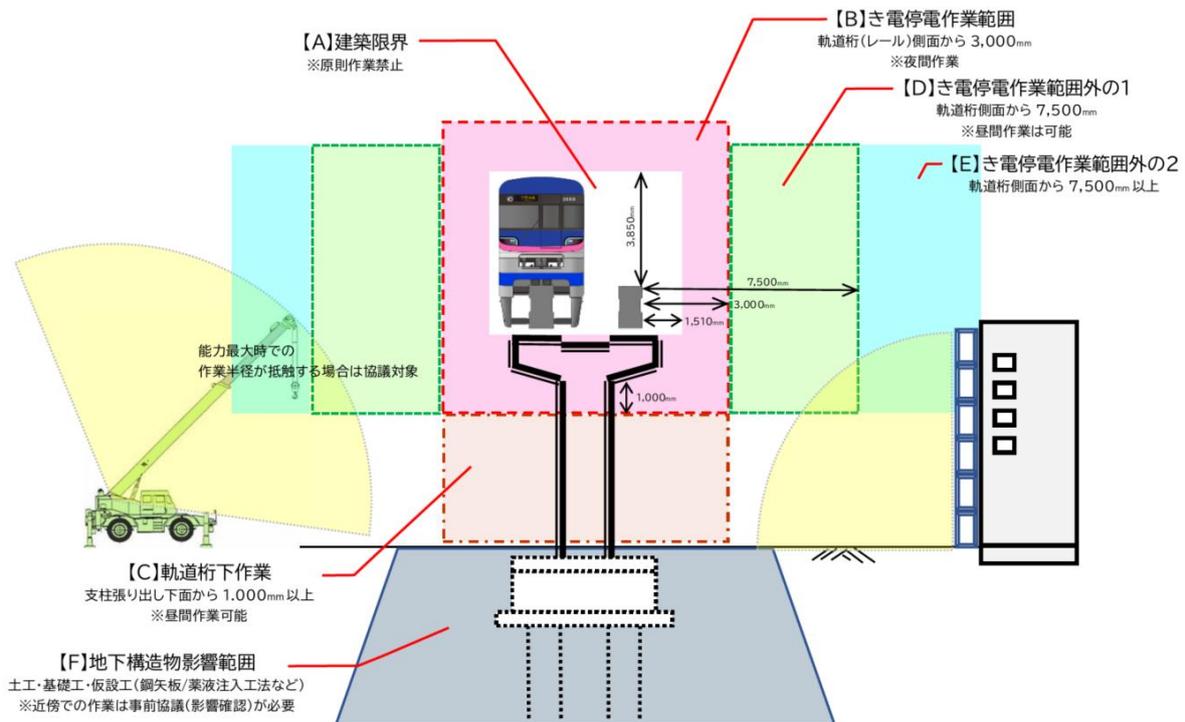
〔建設工事公衆災害防止対策要綱（令和元年9月2日 国土交通省告示第496号）〕

モノレール沿線で工事等を実施される場合には、あらかじめ下記連絡先までご連絡いただきますようお願いいたします。

【近接作業（協議及び事前確認が必要）となる範囲】

※ 下図に概ねの範囲を示しますが、施工現場にはこの様な区分線がありません

また、作業内容等により近接作業となるか否かは変わりますので、必ず事前にご相談ください



連絡先

大阪モノレール株式会社
技術部 企画課 企画係
電話 06-6875-5780
〒565-0826 吹田市千里万博公園 1-8



大阪モノレールは、これからもお客さまに安全かつ安心してご利用いただけるよう取り組んでまいります。

【安全報告書に関するお問い合わせ】

安全推進室 06-6319-9961

(受付時間：9時～17時45分 土・日・祝日・年末年始は休み)